クリーンオーブン（xx1タイプ）

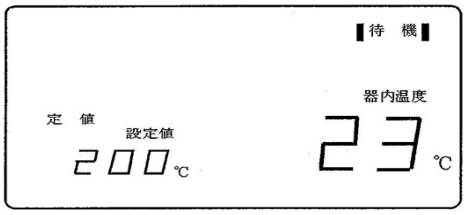
Q：停電復帰動作設定を教えてください。

【型式】PVC-211, PVC-231, PVC-331, PVHC-211, PVHC-231, PVHC-331,
PVC-211M, PVC-231M, PVC-331M, PVHC-211M, PVHC-231M, PVHC-331M,
PVHC-231MS, PVHC-331MS

A：次の通りです。下記はユーザーズマニュアルの抜粋です。

---

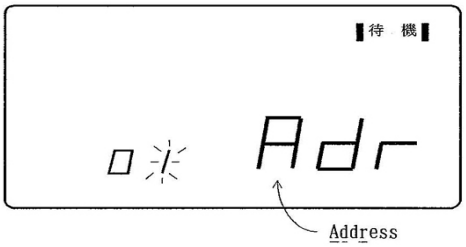
① 定値運転モードの器内温度モニタ画面にして、◀▶キーを同時に３秒間押します。環境設定モードになります。



器内温度モニタ画面

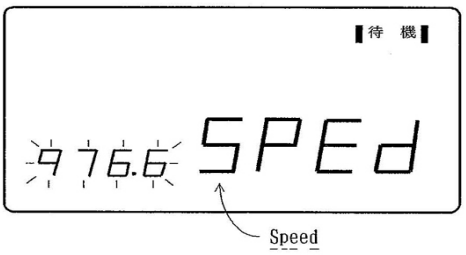
② E-BUSを利用する場合、E-BUSアドレスを設定します。
カーソルキーで希望するアドレス値を設定します。設定範囲はOFF，１～31です。E-BUSを利用しないときは、いずれの数値でも問題はありません。
設定が終了したら（次項入力）キーを押してください。

・E-BUSアドレスは、工場出荷時“１”に設定されています。
・“OFF”は、E-BUS通信がOFFの状態です。



③ E-BUSを利用する場合、E-BUSボーレートを設定します。
アップダウンキーで976.6bpsか4800bpsかを選択します。E-BUSを利用しないときは、いずれの数値でも問題はありません。
設定が終了したら（次項入力）キーを押してください。

・E-BUSボーレートは、工場出荷時９７６．６ｂｐｓに設定されています。

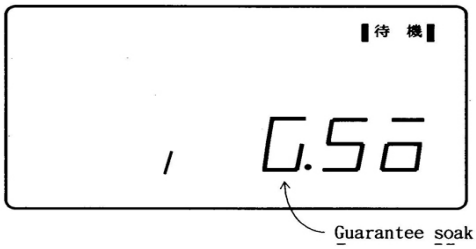


④ ギャランティーソーク機能の設定をします。

アップダウンキーでギャランティーソーク機能を選択します。

（0：ギャランティーソーク機能無効
1：ギャランティーソーク機能有効（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの全ｽﾃｯﾌﾟでｷﾞｬﾗﾝﾃｨｰｿｰｸ機能がONとなります。）
2：ギャランティーソーク機能有効（ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの各ｽﾃｯﾌﾟ毎にｷﾞｬﾗﾝﾃｨｰｿｰｸ機能のONまたはOFFを設定できます。）

設定が終了したら （次項入力） キーを押してください。

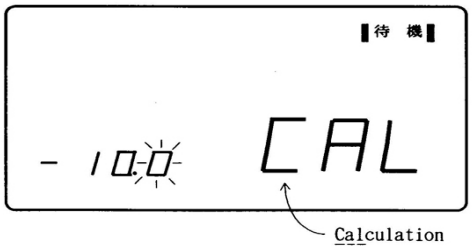


・ギャランティーソーク機能とは、プログラム運転において、槽内温度が設定温度±3℃以内に達してからそのステップの時間を計上する機能です。
・ギャランティーソーク機能は、工場出荷時“1”に設定されています。
・ギャランティーソーク機能の設定を“0”または“1”にすると、プログラムパターン設定時に、ギャランティーソークの動作を設定する項目はスキップされます。

⑤ 補正温度を設定します。

カーソルキーで、補正温度を設定します。－10.0～10.0℃までの範囲で設定可能です。たとえば、温度測定値 200℃、補正温度1.0 ℃の場合、画面には201℃が表示されます。

設定が終了したら （次項入力） キーを押してください。

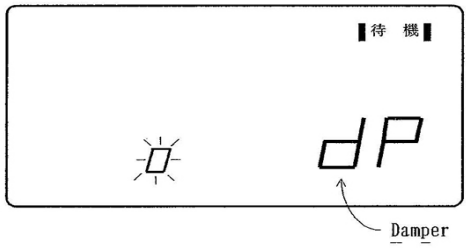


・補正温度とは、温度測定値が希望する温度とずれている場合に、そのずれを補正するための相対温度のことをいいます。温度測定値は器内の温度センサにより検出されますが、器内中央部の温度測定値に近似的に置きかえたいときなどに使います。
・補正温度は、工場出荷時 0 ℃に設定されています。

⑥ オプションの「自動ダンパ」を装備している場合、ダンパ機能を設定します。
アップダウンキーで、ダンパ機能を選択します。「自動ダンパ」を装備していない場合、設定する必要はありません。

0 ： ダンパ機能無効
1 ： ダンパ機能有効（プログラムの全ステップは、定値で設定されたダンパ動作となります。）
2 ： ダンパ機能有効（プログラムの各ステップ毎に、ダンパの動作を設定することができます。）

設定が終了したら 次項入力 キーを押してください。

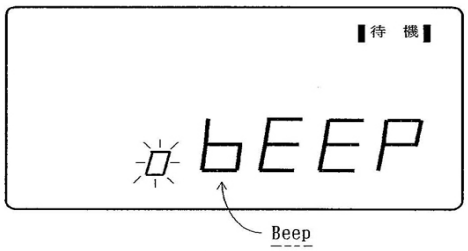


・ダンパ機能は、オプション「自動ダンパ」装備の場合、工場出荷時“２”に設定されています。それ以外の場合は、“０”に設定されています。
・ダンパ機能の設定を“０”または“１”にすると、プログラムパターン設定時に、ダンパの動作を設定する項目はスキップされます。ただし、“１”を設定すると、定値設定時には、動作を設定することができます。

⑦ ブザー機能を設定します。
アップダウンキーで、ブザー機能を選択します。

0 ： ブザーOFF （アラーム時もOFF）
1 ： アラーム時のみ、ブザーON
2 ： プログラム運転終了時、ブザーON
3 ： プログラム運転終了時および各ステップ毎の運転完了時、ブザーON

設定が終了したら 次項入力 キーを押してください。

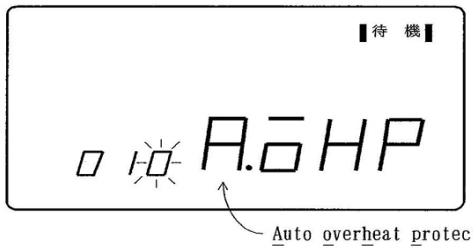


・ブザー機能は、工場出荷時“２”に設定されています。

⑧ 自動温度過昇防止機能を設定します。

カーソルキーで自動温度過昇防止の設定を行ってください。設定範囲は10～49℃またはOFFです。

設定が終了したら (次項入力) キーを押してください。



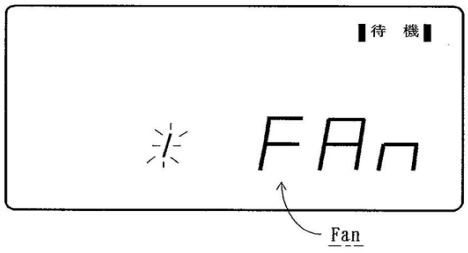
・自動温度過昇防止機能は、工場出荷時10℃に設定されています。

⑨ ファン機能を設定します。

ファン機能とは、器内温度を0℃（温度制御なし）に設定したとき、ファンをONにするか、OFFにするかを選択する機能です。アップダウンキーでファン機能を選択します。

（0： ファン OFF
1： ファン ON）

設定が終了したら (次項入力) キーを押してください。



・ファン機能は、PV(H),PH(H),GPH(H),IPH(H),(H)LKSの場合、工場出荷時“0”に設定されています。また、STPH,SSPH,SPH(H),PV(H)Cは、“1”に設定されています。

⚠ 危　　険

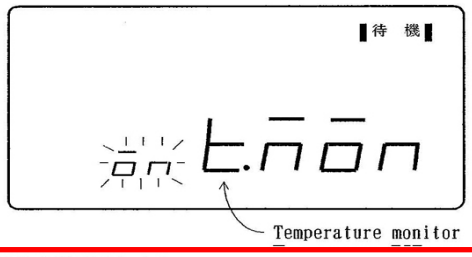
•STPH, SSPH, SPH(H)の場合は、“0（ファンOFF）”にはしないでください。

高温運転中に急にファンが停止すると、ヒータ部が異常高温になり、本器自体や器内の試料が損傷することがあります。特にSPH(H)では、引火性溶剤を含む試料の場合、爆発の危険性がありますので、ご注意ください。

⚠ 必 ず 実 施	
⚠ 注　意	•PV(H)Cの場合は“０（ファンOFF）”には しないでください。 ファンが停止すると清浄度が低下します。

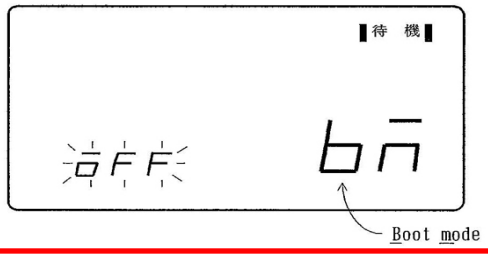
⑩ 器内温度表示画面を設定します。
アップダウンキーで器内温度表示画面のありなしを選択します。
（ＯＮ　：　器内温度表示のみの画面あり
ＯＦＦ：　器内温度表示のみの画面なし）
設定が終了したら（次項入力）キーを押してください。

・器内温度表示機能は、工場出荷時“OFF”に設定されています。



⑪ 停電復帰動作を設定をします。
アップダウンキーで停電復帰時の動作の選択を行います。
（ＯＮ　：　復電時、停電前の状態が継続する
ＯＦＦ：　復電時、コントローラの電源がＯＦＦになる）

・停電復帰動作機能は、工場出荷時“OFF”に設定されています。



⑫ 設定が終わりましたので、（運転内容）キーを押してください。器内温度モニタ画面に戻ります。

・（次項入力）キーを押すと、E-BUSアドレス設定画面に戻ります。

⑬ E-BUSアドレスおよびボーレートの設定を変更したときは、電源を一旦切らないと変更後の設定が有効になりません。コントローラおよび主電源スイッチをOFFにしてください。